



北陸
總鎮守
道

氣比神宮略記

福井県敦賀市曙町十一番六十八号

氣比神宮社務所

電話(0770)221079四番

御祭神

伊奢沙別命 イササワケノミコト 仲哀天皇 ナカウアイテンノウ 神功皇后 シンコウコウゴ 日本武尊 ヤマトタケルノミコト 応神天皇 オホジンテンノウ 玉妃命 タマヒメノミコト 武内宿禰命 タケノウケノスサノミコト

由緒沿革

伊奢沙別命は、筥飯大神^{サヒノオホカミ}、御食津大神^{ミケツノオホカミ}とも称し、二千有余年、天筒の嶺に靈跡を垂れ境内の聖地（現在の土公）に降臨したと伝承され今に神籬磐境^{ヒナギハコイワサカイ}の形態を留めている。上古より北陸道総鎮守と仰がれ、海には航海安全と水産漁業の隆昌、陸には産業発展と衣食住の平穩に御神徳、靈驗著しく鎮座されている。仲哀天皇は御即位の後、当宮に親謁せられ国家の安泰を御祈願された。神功皇后は勅命により御妹玉姫命と武内宿禰命とを従えて筑紫より行啓せられ、親ら御参拝された。その時に筥飯大神が玉姫命に神憑りして「天皇外患を憂ひ給ふなかれ、兇賊は刃に血ぬらずして自ら帰順すべし」と御神託があったという。文武天皇の大宝二年（七〇二）勅して当宮を修営し、仲哀天皇、神功皇后を合祀されて本宮となし、後に、日本武尊を東殿宮に、応神天皇を総社宮に玉姫命を平殿宮に武内宿禰命を西殿宮に奉斎して「四社之宮」と称した。明治二十八年三月二十六日に神宮号宣下の御沙汰に依って氣比神宮と改められた。延喜式神名帳に「越前國敦賀郡氣比神社七座並名神大社」とあり、中古より越前國一ノ宮と定められ、明治二十八年に官幣大社に列せられ、一座毎に奉幣に預ることとなった。当神宮の神領は持統天皇の御代より増封が始まり、奈良時代を経て平安朝初期に能登國の沿海地帯は当神宮の御厨となった。渤海使が相次いで日本海沿岸に來着したので神領の氣比の松原（現国定公園・日本三大松原）を渤海使停宿の処として、天平神護二年（七六六）勅によって松原客館が建設され、これを、氣比神宮宮司が檢校した。延元元年（一三三六）大宮司氏治は、後醍醐天皇を奉じ金ヶ崎城を築いて奮戦したが利あらず一門ごとく討ち死し、社領は減ぜられたが、なお、二十四万石を所領できたという。元龜元年（一五七〇）四月大神司憲直等一族は国主朝倉氏の為に神兵社僧を發して織田信長の北伐を拒み、天筒山の城に立籠り大激戦を演じたが、遂に神宮寺坊は灰塵に帰し、四十八家の祠官三十六坊の社僧は離散し、古今の社領は没収され、祭祀は廃絶するに至った。慶長十九年（一六一四）福井藩祖結城秀康公が社殿を造営されると共に社家八家を復興し、社領百石を寄進された。この時の本殿は流れ造りを代表するもので明治三十九年国宝に指定されたが戦災（昭和二十年七月十二日）により境域の諸建造物とともに惜しくも焼失した。その後、昭和二十五年御本殿の再建につき同三十七年拝殿、社務所の建設九社の宮の復興を見て、祭祀の巖修につとめたが、近年北陸の総社として御社頭全般に亘る不備を痛感、時代の趨勢著しいさ中、昭和五十七年氣比神宮御造営奉賛会が結成され「昭和の大造営」に着手、以来、本殿改修、幣殿、拝殿、儀式殿、廻廊の新設成り、旧国宝大鳥居の改修工事を行ない、平成の御世に至って御大典記念氣比の杜造成、四社の宮再建、駐車場設備により大社の面目を一新して今日に至る。

御神徳

伊奢沙別命は筥飯大神、又の名を御食津大神と称へ奉り食物を司り給う神で、夙に海上交通農漁業に神蹟を垂れ給ひ、神功皇后、応神天皇亦漁業に対する御神徳著しく、古来五穀豊穰、海上安全、大漁祈願が行はれ、現に農漁海運業者の崇信が極めて篤い。仲哀天皇・神功皇后・応神天皇・武内宿禰命は無病息災延命長寿、また神功皇后・玉妃命は音楽舞踏の神である。

例 祭

九月二日宵宮祭、三日神幸祭、四日例大祭、五日より十日迄後祭、十五日の月次祭を以て終るので氣比の長祭として有名である。境内外には露店興業が軒を列ね、練山引山が出され、期間中は市内各種団体の神賑奉納行事があり北陸一帯はもとより、京都、大阪、滋賀、愛知等、各府県からの参拝者頗る多く、北陸の歴史的年中行事として著名である。三日の神幸祭には御鳳輦をはじめ氏子各町の神輿が市中を巡幸渡御になり市内一円は各種行事で賑わい祭礼気分が瀰る。

特殊神事

御田植祭

オダウエマツリ

六月十五日。旧神領地である敦賀市津内の篤農家が奉仕。三百年以上の伝統に支えられ、田長以下早乙女が古伝の神楽歌を口ずさみ豊稷を祈願する特殊神事である。現在は県農業協同

組合が協賛する。

牛腸祭

ゴチウサイ

六月十六日。氏子各町が毎年輪番に牛腸番を受持ち奉仕。大前で祭典を執行し、行列を

整へて斎館に入り、当年の例祭練山曳山等の次第を米くじで決定し一旦帰宮、再び斎館で当番区は山海珍味を饗応する。女子禁制で其他厳重な制度があり類稀なる特殊神事として有名である。

総 参 祭

ソウマイリノマツリ

七月二十二日。神儀を御船形の神輿に奉遷発御、御幸浜より御座船「神宮丸」に奉

安、神功皇后御航行の盛儀を模し、氣比大神の御用漁師たる敦賀湾の漁業家が和船に分乗して神宮丸の曳行を奉仕し、対岸の摂社常宮神社に神幸し給ふ。供奉船も随ひ上下総て神事に加わるので「ソウノマイリ」ともいう。曳行を一度奉仕すれば三年の豊漁に恵まれるといふ信仰をもち、この日敦賀湾は禁漁日とされる。船中で祭典を行ひ神饌を海中に撒き海神に供へ奉る。暫し常宮神社に奉遷し夕景還御。この日常宮神社は例祭を執行する。

境内神社

角鹿神社

ツスガ

摂社、祭神都怒我阿羅斯等命、式内社、崇神天皇の御代、任那の王子の都怒我阿羅斯

等氣比の浦に上陸し貢物を奉る。天皇氣比大神宮の司祭と当国の政治を委せらる。その政所の跡に此の命を祀ったのが当神社で現在の敦賀の地名はもと「角鹿」でこの命の御名に因る。殿内に宝物獅子頭を安置す。除災招福の信仰が篤い。天保十年松尾大神を合祀、酒造家の信仰が篤い。

大神下前神社

オオミワシモサキ

末社、祭神大己貴命、式内社、氣比大神四守護神の一つとしてもと天筒山麓に

鎮座されていたのを明治年間現在の地に移転、稲荷神社と金刀比羅神社を合祀し、特に海運業者の信仰が篤い。

児宮

コノミヤ

末社、祭神伊弉冊尊、徳川時代から子育ての神と称され小児の守神として信仰が篤い。

猿田彦神社

末社、祭神猿田彦大神、氣比大神の案内をされる神といふので表参道北側にある。

一般に庚申様と唱へて信仰が篤い。

神明両宮

末社、祭神、天照皇大神（内宮）、豊受大神（外宮）、外宮は慶長十七年三月二十八日、

内宮は元和元年九月二十八日それぞれ勸請奉祀されたものである。

九社之宮

天利劔神社

御祭神は天利劔大神。式内社で、往昔仲哀天皇當宮に参拝宝劔を奉納あらせられ

靈驗いとも奇しと云ふ。後に祠を建て天利劔宮と稱へ奉り御神徳をさずかる崇敬者はすこぶる多い。
あめのいざなひこ

天伊弉奈彦神社

御祭神は天伊弉奈彦大神。式内社で續日本後記に、承和七年八月越前國從二

位勲一等氣比大神御子無位天利劔神、天比女若御子神、天伊佐奈彦神、並從五位下を奉授せらるゝと

ある。

天伊弉奈姫神社

御祭神は、天比女若御子大神。式内社、社家傳記に、伊佐奈日女神社伊佐奈

伊佐々別神社

御祭神は御食津大神荒魂神。みけつおほかみあらみたまのかみ當宮舊記によれば「古来漁捕の輩之を尊敬し奉る」

日子神社は造化陰陽の二神を祀りしものなりと云う。古来縁結びの御神徳が顯著である。

とある。この社殿が北面しているのは漁撈を守る神であるから、北方の海を向いているのだと伝えられている。往昔応神天皇皇太子の時當宮に参拝され、夢に大神が現れ御名を易ふる事を約し亦仰せの通り翌朝浜に出てみると筍飯の浦一面に余る程御食の魚を賜わった。天皇大いに喜び給ふと共に御神威を辱なみ、武内大臣に命じて新たに荒魂を勧請崇祀せしめられたのがこの社である。

擬 領神社 おほみやつこ 社記に武功狹日命と伝え、一説に大美屋都古神又は玉佐々良彦命とも云う。舊事

紀には「蓋し當國國造の祖なるべし」と載せてある。

鏡 神社 かがみの 神功皇后角鹿に行啓の際種々の神宝を當宮に捧げ奉った。其の中の宝鏡が靈異を現は

されたので別殿に國常立尊と共に崇め奉り天鏡宮と稱へ奉ったと云う。慈悲之大神として遠近から
の参詣者が絶えない。

金 神社 かねの 素盞鳴尊を祀り、家内安全の神とされている。恒武天皇延暦二十三年八月二十八日、釋

空海當宮に詣で、大般若經一千卷を轉讀求法を祈り、嵯峨天皇弘仁七年に復び詣でて当神社の靈鏡
を高野山に遷して、鎮守の社とした。即ち紀州高野山の氣比明神はこれである。

林 神社 はやしの 林山姫神を祀る。福德円満の大神として崇敬者が多い。延喜式所載の越中國礪波郡林

神社は當社と御同體である。垣武天皇延暦四年勅に依り釋最澄氣比の宮に詣で求法を祈り、同七年
再び下向して御子林神社の靈鏡を請ひ比叡山日吉神社に遷し奉った。即ち當社が江州比叡山氣比明
神の本社である。

劍 神社 つるぎ 御祭神は姫太神尊、剛毅果斷の大神として住古神明の奇瑞があつたので、助生野村
からここに勧請し奉ったと伝えられている。

文化財指定

大鳥居 高さ三十六尺柱門二十四尺、木造両部型本朱漆、寛永年間旧神領地佐度国鳥居ヶ原か
ら伐採奉納した榎樹で、正保二年建立した。明治三十四年国宝に指定され、現在は国の重要文化財
である。正面の扁額は有栖川宮威仁親王の御染筆である。他に、敦賀市指定文化財として、能面尉、
猿田彦面、氣比神宮古図、ユーカリ樹がある。

行幸啓奉幣及祈願

当宮は往古より皇室の御尊崇最も深厚にして歴朝の奉幣又行幸啓も極めて多し（以下主なるを記
す）

宝亀元年（七七〇）中臣葛野連飯麿を遣はして奉幣

承和六年（八三九）神祇少副大中臣朝臣磯守を遣はして奉幣

寛平五年（八九三）菅原道真朝臣を遣はして奉幣

延久元年（一〇六九）橘朝臣季任を遣はして奉幣

弘安四年（一二八一）蒙古来襲により使を遣はして奉幣

正応年中（一二八八―一二九九）異族襲来の聞えあり宮司勅を奉じ祈請

元禄十四年（一七〇二）合祀一千年祭執行に当り、青蓮院宮御社参、神馬一疋、太刀一振献ぜらる。

同年 尊祐法親王より「正一位勲一等氣比大神宮」の扁額ご奉納

明治十一年 明治天皇御親拝、幣帛神饌料を奉らる

同二十二年 憲法發布奉告祭のため勅使参向奉幣

同三十七年 日露宣戦奉告祭に勅使参向奉幣

同年 有栖川宮威仁親王御染筆の国宝大鳥居の扁額ご奉納

同四十二年 東宮殿下（大正天皇）御参拝、松樹の御手植を遊ばさる

昭和十四年 東久邇宮稔彦親王殿下御参拝

同四十一年 常陸宮殿下同妃殿下御参拝

同四十三年 昭和天皇皇后両陛下御親拝御幣帛を奉らる

同六十二年 昭和天皇本殿遷座祭にあたり幣帛料を奉らる
平成 三年 天皇后兩陛下北陸行幸の際幣饌料を奉らる

境内

当神宮境内地全域一一、二五三坪。東北部にある「土公」は当神宮鎮座にかかる聖地である。社殿
家屋建立の時、「この土砂を其の地に撒けばあしきの祟りなし」と信ぜられる伝説と神秘に富む
神代の述霊、古へ最澄、空海もここで大行を修した。又、菅原道真公献木の「菅公の梅」が近年迄
あったが昭和の大造営により四季桜とともに氣比の杜に移植した。年中行事「御砂持行事」の起源
をなす一遍上人が参道修理を物語る蓮池の不思議があり、「多宝梅」がある。又、延元元年当神宮宮
司氣比氏治が御醍醐天皇を奉じ旗挙げした一名「旗掲の松」の旧根が朱塗中島居前に残っておりそ
の二代目が既に成木として雄々しく育っている。

神水苑

氣比の社は創祀二千有余年の歴史に培われた日本有数の古社であり元の宮幣大社である。敦賀の地
は往古より良質の水が豊富に湧き出ており中でも当神宮の神域はその水脈の中心である。故に江戸
時代初期には日本庭園歴覧にも記された名池が誕生し、明治四十二年東宮殿下（大正天皇）御参拝
の折お茶の水に用いられた一井がその由来を物語っている。昭和の大造営につづき同池に大規模の
神水苑築造が成され、各方面より拝観と神水を求めて訪れる崇敬者は後を絶たない。

歴代天皇肖像画

当神宮は古くより皇室と関係極めて顕著であり、近年の昭和の大造営を契機に平成四年十二月十五日
篤信者の奉納にかかる祖神天照大御神並第百二十五代今上天皇に至る歴代天皇肖像画が大前に整然
と掲げられている。御希望に応じて拝観を受付けている。此の肖像画は斯界に權威ある全日本肖像
美術協会総裁馬堀法眼喜孝氏謹製に依るものである。